

福田充（ふくだみつる）

日本大学危機管理学部 学部長 教授

大学院危機管理学研究科 研究科長 教授

1969年、兵庫県西宮市生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。博士（政治学）。専門は危機管理学、リスク・コミュニケーション、テロ対策、インテリジェンス、災害対策など。内閣官房委員会委員、コロンビア大学戦争と平和研究所客員研究员などを歴任。元内閣官房新型インフルエンザ等対策有識者会議委員。

著書に『リベラルアプローチでひらく危機管理学』（ミネルヴァ書房）、『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）、『テロとインテリジェンス～霸権国家アメリカのジレンマ』（慶應義塾大学出版会）、『政治と暴力～安倍晋三襲撃事件とテロリズム』（PHP新書）、『リスク・コミュニケーションとメディア』（北樹出版）など。



オールハザード・アプローチの必要性

危機管理学の対象は、社会のすべての危機

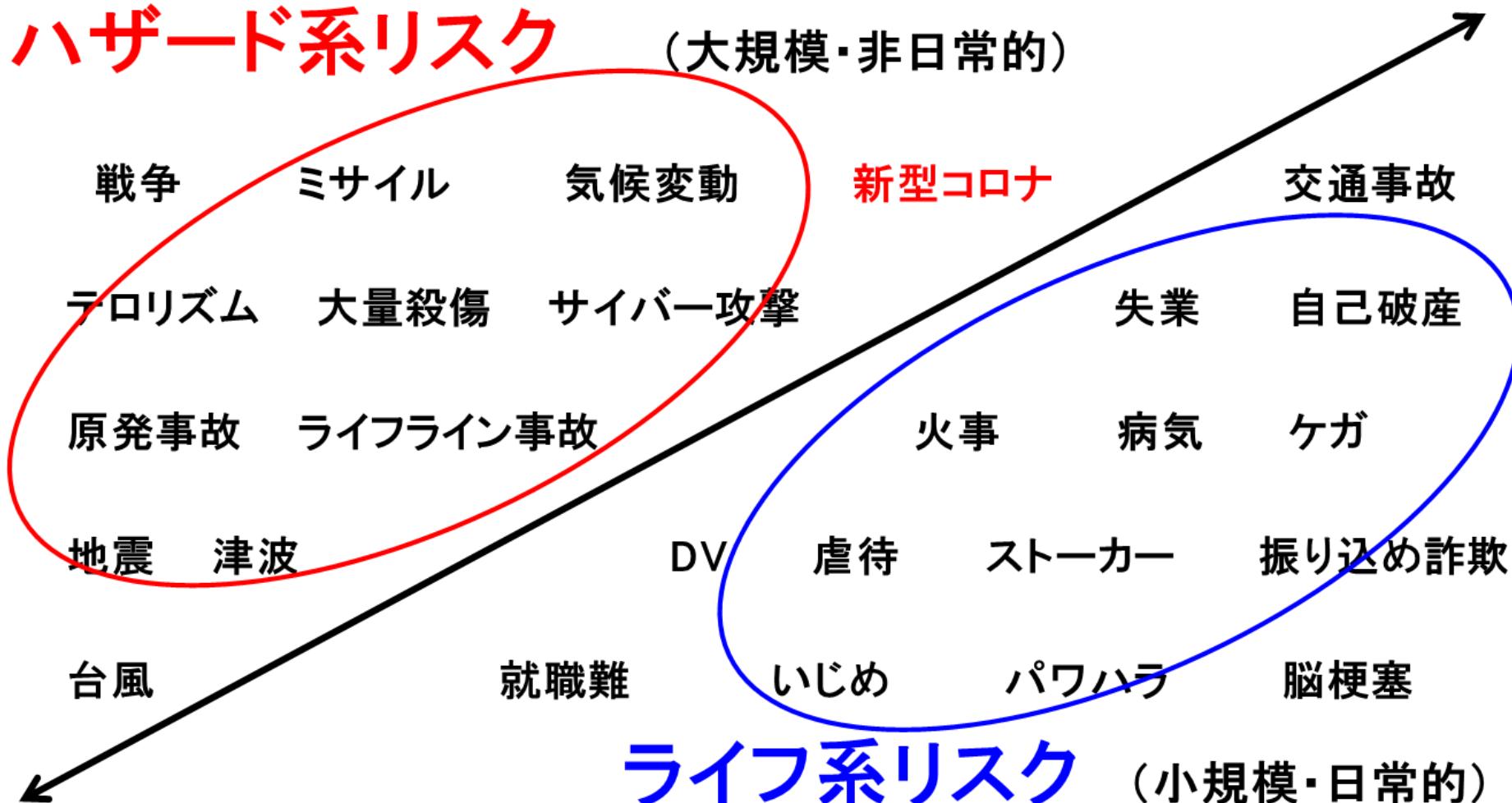
危機管理学 = オールハザード・アプローチ

All Hazard Approach

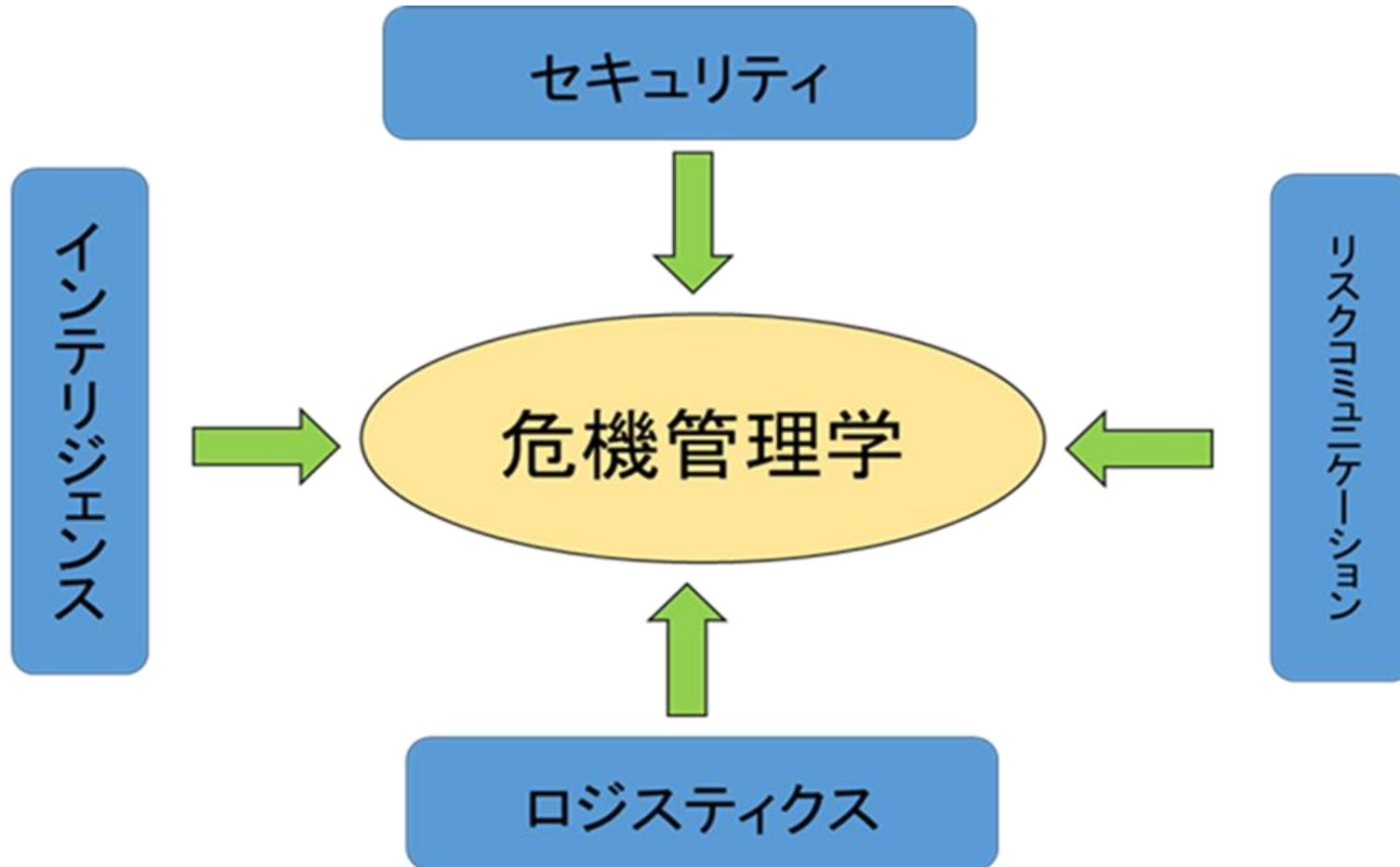
すべての 破滅的危機 を対象にする

地震や台風などの自然災害、犯罪やテロリズム、ミサイルや戦争・紛争、情報流出やサイバー攻撃、ネット炎上、感染症パンデミックなどすべての破滅的危機を対象にする危機管理学。

オールハザード・アプローチ



危機管理学の4機能モデル (福田)



感染症危機管理に求められる4機能

①感染症インテリジェンス

世界中の感染症の情報、データを収集、共有、分析、立案

②感染症セキュリティ

外国からの流入を防ぐ出入国管理、検疫・防疫、移動規制

③感染症ロジスティクス

病床、医療従事者、機材、防護服、マスク、ワクチン、治療薬

④感染症リスクコミュニケーション

3密回避、外出自粛など要請から、平時の合意形成まで